

北殿駅前新聞正月号 長徳医院 発行

★**医院ニュース①** 年末年始休暇は**12月30日(金)から1月3日(火)**までです。1月4日(水)からは通常通り診療を行います。

★**医院ニュース②** **1月10日(水)**は特別休暇、**1月28日(土)**は日本心臓病学会の特別講習会参加のため**終日休診**です。ご迷惑をおかけしますが、しっかり勉強してきますので宜しくお願いいたします。

★**医院ニュース③** **1月23日(月)**、**1月30日(月)**は、**伊那中央病院地域救急医療センター**で夜間診療に従事します(午後7時~10時過ぎ) によって**夕方の診療は18時15分くらいで終了**となります。

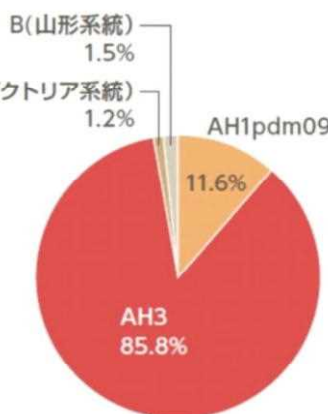
★**医院ニュース④** **1月12日(木)**は会議のため、**18:30で診療を終了**します。宜しくお願いいたします。

★**医院ニュース⑤** **1月27日(木)**は循環器講習会の開催地への移動のため、**18:30で診療を終了**します。宜しくお願いいたします。(午後はお早くいらして下さい)

今シーズンのインフルエンザ

今シーズンの流行は、例年よりも**2~3週ほど早い立ち上がり**(右3図の肌色の棒グラフ)となっています。また2016年第36週(9月5日~11日)から第48週(11月28日~12月4日)までに検出されたインフルエンザウイルスは344件。ウイルスのタイプ別では、**AH3(香港A型)**が206件(85.8%)と大半を占めました。

AH3流行(香港A型)でまず懸念されるのが、**高齢者を中心とする重症例の増加**です。AH3の場合、**高齢者では肺炎を併発し重症化しやすい**といわれています。



(n=344)

一方で、今年11月中旬から0~9歳の低年齢児の**AH1pdm09=H1pdm09=H1N1(A型新型)**による入院が増加しています。**A型新型**は、感染しても多くの方が比較的軽症のまま数日で回復しています。しかし持病がある人のなかには、治療の経過や健康管理の状況によって、感染すると重症化する場合がありますので注意が必要です。重症化しやすいのは、①慢性呼吸器疾患(喘



本年もよろしくお祈りします。

超高齢犬になりましたがまだまだ頑っている我が家のレオンです。

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

★**1/10(火),28(土)**は休診です

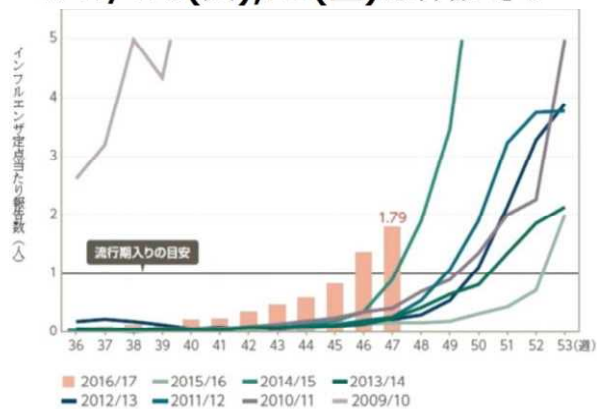


図1 例年になく早い立ち上がりを見せるインフルエンザ流行(国立感染症研究所のデータを基に作成)

息等→これが最多)、②慢性心疾患、③糖尿病などの代謝性疾患、④腎機能障害、⑤ステロイド内服などによる免疫機能不全などの患者さんです。

B型ビクトリア系統 B型ビクトリア系統の抗体を持っている人は**4歳以下と60歳以上**で大変少なく、予防接種が必要です。**熱が出ない**患者さんも多いので注意が必要です。またインフルエンザB型は、A型に比べると比較的毒性は弱く、重症化する可能性も低いと言われていたのですが、A型よりも長期間微熱が続いたり、だらだらと風邪のような後遺症が続く傾向があります。また、**消化器症状(下痢・腹痛・吐き気)**がひどくなることがあるので、注意が必要です。

インフルエンザの症状チェックシート

最重要ポイント 以下の3つが揃うことがインフルエンザの特徴です。①**周囲でインフルエンザが流行している** ②**急激な発症(前触れなく突然発症する)** ③**38℃以上の高熱、悪寒**
 最重要ポイントの他にも以下のような症状があればインフルエンザを疑いましょう。④**頭痛**
 ⑤**関節痛** ⑥**筋肉痛** ⑦**食欲不振** ⑧**全身倦怠感、疲労感** 以下の風邪症状も同時か遅れて現れます ⑨**喉の痛み** ⑩**咳嗽(出ない場合もある)** ⑪**鼻水 くしゃみ**

B型よりも**A型**のほうが症状は強い場合が多いです。(特に今年流行の**香港A型(AH3)**が最も重いといわれています) **潜伏期は1日から5日(平均3日間)**とされています。通常、症状は約1週間で軽快することが殆どですが、**肺炎**や幼児の場合は**脳炎**などを合併する場合もあり、要注意です。

インフルエンザの合併症には**中耳炎、気管支炎、肺炎**などがありますが、**高齢者に死をもたらすものは肺炎**。最近、深刻な問題になっているのは**小さなお子さんの脳炎、脳症**です。毎年、約100人の子供が死亡し、同じくらの後遺症患者が出ているといわれます。脳炎、脳症は症状から出てから0~2日で死亡することの多い怖い合併症です。

恐ろしいことに**インフルエンザ脳症**が昨年度から再び増加に転じています。特に**15歳未満の増加**が増えているのが特徴です。各年齢層ともA型の割合が50~66%と多かった一方で、**B型も28~36%**と決して少ないわけではありません。死亡報告の14例に限っても、A型が64%、B型が36%で、患者全体と変わりません。**B型の流行時にも、脳症を念頭に置く必要があります**。インフルエンザの経過中に**食欲不振、嘔吐**などで、一種の**飢餓状態**に陥ることがあります。それがきっかけで、糖代謝や脂肪酸代謝の破綻が進み、エネルギー代謝異常の状態、つまりエネルギー危機に陥ります。これにより特に感受性の高い脳の血管内皮細胞の傷害が進み、浮腫そして脳圧亢進→**インフルエンザ脳症**と突き進んでいくことが考えられています。**病初期の輸液(点滴)**が有効であると考えられます。重症なインフルエンザが疑われる場合には点滴の出来る医療機関を受診することが大事です。

重症患者の鑑別法として**1分間の呼吸数**が重要です。1分間の呼吸数に着目すると、**2~12カ月児では50回以上、1~5歳では40回以上、6歳以上では30回以上**が、重症の目安となります。こういった症例では**抗インフルエンザ薬の点滴**による治療が必要です。

